

## 令和元年第5回帯広市公営企業経営審議会 議事録

日 時 : 令和元年 9月4日 (水)

午前10時～午前11時10分

場 所 : 帯広市役所10階第6会議室

事務局

定刻となりましたので、ただいまより、第5回帯広市公営企業経営審議会を開催いたします。

管理者

おはようございます。

本日はお忙しい中審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

さて、本日は平成30年度決算報告並びに4回目のおびひろ上下水道ビジョン策定についてご審議いただきます。

ビジョンは、これまで3回の審議を重ね、委員の皆様から多くのご意見をいただきました。

これら意見を踏まえ、事務局で答申書案を作成しましたので、後ほどご意見をいただきたいと考えております。

今後のビジョン策定のスケジュールでございますが、本日答申案をご検討頂き、後日、会長から私どもに答申をいただき、それをもとに11月にビジョンの原案を作成し、議会にも説明し、パブリックコメントを行なった後、来年2月の経営審議会にて、最終案を報告する予定となっております。

また、決算は上下水道の両会計ともに平成30年度も黒字を維持し健全経営を維持できたところでございます。

この決算については、本日の審議会報告後9月10日より開催予定の定例市議会に提案する予定でございます。

今年も全国各地で自然災害が発生し、8月には九州北部で発生した断続的な大雨により、河川の氾濫や崖崩れ、住宅の浸水など大きな被害が発生しております。今後、台風シーズンなどもやってまいりますので、私どももさらなる注意が必要と考えております。

毎年、各地の災害発生状況をみますと、これまで以上に上下水道の施設や管路の強靱化にむけた対策の必要性を強く感じているところでございます。

最後に、委員の皆様には様々な視点で忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げます。

どうぞ、よろしく願いいたします。

事務局

続きまして、後藤会長からご挨拶をお願いいたします。

会長 皆様おはようございます。委員の皆様には何かとご多忙のところお集まりいただきありがとうございます。

本日は、平成 30 年度水道事業・下水道事業決算状況をご審議いただきます。先週の北九州の豪雨災害、昨日は横浜、毎年この時期には日本の何処かで短時間の集中した豪雨があります。北海道では岩見沢や深川、3 年前には帯広も台風被害がありました。何時起こるか分からない災害が多発しておりますが、将来に向けての安心安全を数字の面から確認していただきたいと思います。

また 6 月から議論いただいております上下水道ビジョンの策定に向けての答申について、先ほど阿部管理者からのご説明通りのスケジュールで進めてまいります。本日はどうぞよろしく願いいたします。

事務局 帯広市公営企業経営審議会規程第 3 条第 2 項の規定に基づき、委員 15 名のうち、現在出席 9 名で、過半数に達しておりますので、本日の審議会は成立いたします。当審議会規程に基づき、後藤会長に議事進行をお願いいたします。

会長 それでは、さっそく平成 30 年度決算状況のご説明をよろしく願いいたします。

事務局 平成 30 年度決算の概要について、ご説明いたします。

市民生活を送る上で欠かすことのできない、ライフラインであります水道・下水道事業は、利用者の皆さまからの水道料金及び下水道使用料で事業を行なう、独立採算による公営企業として経営しております。

先ほど管理者からもお話がありました水道事業会計及び下水道事業会計の決算の認定につきまして、9 月 10 日に開会されます市議会に、議案として提案することとなります。

それでは、お配りしております A3 判の資料 1、平成 30 年度水道・下水道事業会計決算概要に沿ってご説明いたします。

なお、資料 2 につきましては、決算報告補足説明及び事業年報とともに、事前送付しておりますので詳細な説明は省略させていただきます。

平成 30 年度決算の財務状況としましては、水道事業会計は、資料 1 の左側上段になりますが収入総額 55 億 3,096 万 5 千円、支出総額 67 億 6,142 万 8 千円、当年度純利益は税抜で 5 億 9,581 万 3 千円、となりました。

下水道事業会計は、資料 1 の右側上段になりますが収入総額 62 億 2,030 万 8 千円、支出総額 74 億 228 万円、当年度純利益は税抜で 6 億 3,912 万 3 千円、となりました。

上下水道ビジョンにおけます財政収支計画では、人口減少などの影響を勘案して、収入を厳しく見込んでおりましたが、結果的には、使用水量が増加したことに

より、給水収益、下水道使用料ともに予算対比で増となっております。

また、支出につきましても、経費の節減などにより、その抑制を図り、経営の安定化に努めてきたところであります。

この結果、両会計ともに純利益を確保することができ、資料にはありませんが、内部留保資金につきましても、一定程度確保でき、健全な経営状況が維持できたものと考えております。

なお、この内部留保資金は、今後の老朽施設の更新や災害に強い施設づくりなどに充てていくものであります。

また、平成 30 年度予算として議決を頂きました、資料 1 下段の全ての事業につきまして、滞りなく無事執行することができました。

今後も、人口減少等による使用水量の減少が見込まれるなか、稲田浄水場等の施設の更新や下水道施設の長寿命化などの事業を実施してまいります。効率的な事業運営を進めながら、計画的に取り組むことにより、水道・下水道事業ともに、引き続き安定した企業経営を維持できるものと考えております。

私ども、上下水道部といたしましては、安全で安心して利用できる上下水道サービスを、将来にわたって提供していくため、おびひろ上下水道ビジョンを基本とした、中長期的な視点による健全な企業経営を行なうとともに、次代を担う職員の育成に努めてまいります。

なお、資料 1 下段の主な取組内容については各担当者より説明いたします。

私からは以上でございます。

## 事務局

水道事業会計の主な取組内容について説明いたします。

A 3 資料 1 をご覧ください。上から順番に事業名ごとに説明いたします。

配水管整備事業費でございますが、道路工事関連移設更新事業の 7 次整備では、主な箇所として、新厚生病院東側の道道共栄通の整備に合わせ、配水管整備を行なっています。延長合計で 2,075m。

塩化ビニール管更新事業の近代化事業では、西 19 条南 4 丁目明和小学校の付近を中心に市内で更新事業を行なっています。延長については、12,548m を実施しております。

管路近代化事業の進捗率ですが、平成 31 年度末の計画 87.8km に対し、30 年度末で約 87% の進捗状況で順調に事業は進んでおり、今年度末で計画を達成する見込みです。

配水管整備事業費合計 10 億 4,595 万 2 千円でございます。

次に、稲田浄水場電気計装更新事業ですが、平成 29 年度から 2 ヶ年の継続事業で、導水ポンプなどの電気計装の更新を行っています。

また、新たに平成 30 年度より 2 ヶ年の継続工事で設備更新工事に着手しており

ます。

この設備更新工事では、昨年ブラックアウト時に稼動した稲田浄水場の自家発電施設の更新約 3 億 6,800 万円が含まれており、更新は 11 月中旬には完了いたします。

今後、停電時におきましても心配なく安定的に浄水機能や配水機能が維持できます。

この設備更新と電気計装更新あわせまして、5 億 5,788 万 8 千円でございます。

次に、災害対策事業といたしまして、大規模な断水時などの飲料水確保といたしまして、避難所に設置します組み立て式応急給水コンテナとコンテナを乗せます架台 5 セットを備蓄資材として購入いたしました。計画 30 セットに対しまして、平成 30 年度末、25 セットとなり計画通り本年度で整備完了です。

また、応急給水コンテナに使用いたします応急給水栓も購入しております。

次に、配水ブロック境界にある仕切弁の電動化事業です。2 ヶ年で全 3 箇所整備が完了したことにより、現地に行かなくても、稲田浄水場での迅速な操作が可能となりました。

水道事業は以上でございます。

事務局

それでは、下水道事業の主な取組内容につきましてご説明いたします。お手元の資料 1 決算概要の右下段をご覧ください。

下水道事業についてですが、平成 30 年度は、主に 5 つの事業を実施しております。

まず一つ目の公共下水道整備事業（汚水雨水）についてでございますが、汚水管整備につきましては、西 25 条南 2 丁目ほか 1 地区で整備を行い、平成 30 年度末で目標整備率 98.7%のところ 99.0%となっております。

また、雨水管整備につきましては、北海道施工の幹線道路の共栄通ほか 4 地区で整備を行い、平成 30 年度末で目標整備率 70.6%のところ 71.4%となっております。

事業量につきましては、汚水管整備延長 546m、雨水管整備延長 2,127m、合計 2,673m を実施し、事業費は汚水、雨水合わせまして 3 億 4,690 万 9 千円となっております。

続きまして二つ目の下水道長寿命化事業についてですが、令和 4 年度までに耐用年数 50 年を経過する合流区域と大空地区の下水道管渠の更新と、市内 34 箇所あるポンプ設備の内、耐用年数 15 年を経過する設備更新について、それぞれ長寿命化計画を策定し、当該事業を進めているものであります。

下水道管渠については、基本的にはひび割れや破損などの不具合がある路線のみを対象とし、道路を掘らずにマンホールから管の中に材料を入れて、内面を被覆する工法により、更新工事を実施しております。

また、ポンプ設備については、耐用年数 15 年を経過するポンプ設備の内、状態が悪いものから優先し、更新しております。

事業量につきましては、長寿命化工事 539m、下水道管の中を調査するテレビカメラ調査 7,939m、ポンプ更新工事 2 箇所を実施し、事業費は 1 億 2,334 万 7 千円となっております。

続きまして三つ目の帯広川下水終末処理場施設改修事業についてですが、これは、家庭から流された生活排水などを浄化する下水終末処理場の改修です。

管渠同様、長寿命化計画を策定し、老朽化設備の更新を進めているものですが、もうひとつの処理場であります十勝川浄化センターへの将来的な汚水処理統合を見据え、継続する施設を中心に更新事業を進めております。

事業内容につきましては、最終沈殿池設備更新工事を実施し、事業費は 1 億 5,402 万 3 千円となっております。

続きまして四つ目の災害対策事業についてです。

事業につきましては、昨年度に引き続き、近年頻発している台風や大雨等による浸水災害などに対応するための備蓄資器材の充実や、浸水被害があった地域の雨水管の優先整備などを実施しているものでございます。

事業内容についてですが、水中ポンプにつきましては、平成 28 年 8 月の台風による浸水被害や大雨時の災害対応を強化するために、国の交付金を活用し、今年の 6 月の補正予算にて導入したものでございます。

また、平成 28 年の台風で大きな浸水被害があったバラト地区を災害対策優先箇所として、雨水管整備 409m を整備したほか、雨水が入りにくい構造の公共汚水桝や大雨時におけるマンホール蓋の浮き上がりを防止する鍵付きマンホール蓋の取替えを進めたところであります。

事業費につきましては、1 億 401 万 6 千円となっております。

最後にマンホール蓋のカラー化についてです。

事業内容につきましては、下水道事業や観光 PR などを目的に制作したものでありまして、昨年 7 月に開催した上下水道部のイベントであります水を見る週間で市民に初お披露目し、市役所前、帯広駅周辺や広小路などに 10 箇所設置したところでございます。

事業費につきましては、950 万 4 千円となっております。

以上でございます。

会長

それではご質問等あれば、お願いします。

委員

給水収益は予算に比べて使用水量が増のため増えているとなっているが、別の資料には、使用水量が予算見込ほど減少しなかったことによる増となっている。

使用水量が減少したら給水収益は減るというように読んでしまうが、使用水量は実態として増えているのか、減っているのか説明をお願いしたい。

事務局 予算では使用水量は人口減少とともに下がるという見込みを立てましたが、実際は世帯数が増えていることにより増となっております。

委員 帯広市の将来世代負担比率が他都市と比べると高いのはなぜか。

事務局 細かい分析はしていないため明確な答えは持っていませんが、将来世代負担比率は企業債の残高が影響してきますので、稲田浄水場の整備を強化してきたこと等が影響しているのではないかと思います。

しっかりと計画を立てて事業を進めながら経営に努めてまいりたいと考えております。

委員 マンホール蓋のカラー化の事業費の内訳をご説明願いたい。

事務局 事業費の内訳については製作から設置までの一連の費用です。

委員 市民に安全な水を届けるために、想像以上に非常に多くの検査を行っていることに感心した。

会長 他に無ければ、議題 2、上下水道ビジョン 2020 答申案についてご説明をお願いします。

事務局 6 月 4 日に阿部管理者から後藤会長へビジョン策定について諮問させていただき、その後、委員の皆様から様々なご審議、ご意見いただいた内容を、この度の答申書案に反映いたしました。

また、ご意見の内容によっては、この答申をいただいあと 11 月に策定するビジョンの原案に反映するものもございますので、ご了承ください。

なお、これまでに皆様からいただいたご審議、ご意見等は、資料 4 にまとめておりますので、説明は割愛させていただきたいと思っております。

それでは、答申案について、委員の皆様からのご意見等の反映部分を中心にご説明させていただきます。

まず、1 ページ目答申にあたってでは、これまでの議論や審議会の考えなどを総括的にまとめ、答申に基づいて新しい上下水道ビジョンが策定されることを期待する旨を記述しております。

2 ページ以降では、答申項目を大きく 3 点にまとめております。

まず、2 ページ、1 上下水道事業の現状と課題ですが、5 つの課題について記述しております。

そのうち (5) 財政状況では、社会情勢の著しい変化等によって大きな影響が生じる場合には見直しが必要、というご審議がありましたのでこれを反映しております。

3 ページ、2 基本理念、目指すべき方向については、重点部分をゴシック部分でわかりやすく記述しております。

4 ページ、3 基本方針、実施施策については、7 つの基本方針ごとに、課題に対する必要となる取組概要を記述しております。

(3) 災害時の信頼性向上では、施設の耐震化や雨水管の整備を計画的に実施すること、(4) 環境負荷の軽減では、新エネルギー等の活用について、(5) 利用者サービスの向上では、JICA と連携した研修が必要であること、あるいは新たな技術やサービスの導入に向けた調査研究、水道料金・下水道使用料体系について検証見直しをする必要がある、(6) 組織力の向上では、再任用制度を活用した職員の確保に努める、上下水道の専門的な知識や技術の継承が必要、(7) 財政基盤の強化では、引続き水道料金・下水道使用料収入の確保に向けた取組を進めることのほか、運営権を民間事業者に設定するコンセッション方式を導入すべきでない考えを記述しております。

最後 6 ページに、名簿と審議会経過を記載しております。

説明は以上です。

会長

それではご質問等あれば、お願いします。

委員

どのような方法で若い方への技術の継承をされているかということをお聞きしたい。

事務局

水道部で技術の継承部会というものを立ち上げ、年間の計画を立て技術の継承、日本水道協会、日本下水道協会の研修への参加、また参加した職員が講師となり研修の開催、部内での研修会、技術力を持った再任用職員を中心に経験の浅い職員への技術指導ということを行っております。

委員

前回お話しさせていただいた、料金の値下げに対する今後の対応を、今後の収支見通しを慎重に見定めながらと記載していただいている。

財政基盤の強化で民間業者のノウハウを最大限活用とあるが、私ども電気メーターはスマートメーターに切り替っており、ぜひ知見の共有をさせていただきたいと

思う。

また電気料金の徴収を外部委託しており、このあたりも積極的に進められたらいいのではないかと思う。

委員

どのような対策へも財源が必要ですので内部留保はしっかり厚くすべき。

水事事業は安心安全が最優先されるべきだと考えているので料金の見直しは慎重になるべきと思う。

委員

各地のボトルドウォーターを集めて、飲み比べなどのイベントを行うと改めて帯広の水のおいしさに気づいてもらえるのではないか。

帯広市はコンパクトシティを目指しているということであるが、取り組みについて伺いたい。

事務局

飲み比べについては、イベント等でそのような機会を設けられたら、取り入れてみたいと思います。

コンパクトシティに向けた取り組みとしては、これ以上市街区域を拡大せず、現在ある市街地の空き地等を活用し、市街地の充実を図る必要があると考えています。

委員

利用者サービスの向上について、JICA と連携した研修とはどのようなものか。

事務局

途上国の方の汚水処理の研修の際の施設を提供する方向で考えています。

会長

他に無ければ、答申案全体を通して、ご意見ありますでしょうか。

委員一同

なし。

会長

ご意見が無いようなので、この答申書の体裁を整え、後日阿部管理者へお渡ししたいと思いますが、私と副会長に一任して頂いてよろしいでしょうか。

委員一同

了承。

会長

それでは、次に議題（3）のその他について、事務局からなにかございますか。

事務局

次回の帯広市公営企業経営審議会は、令和2年2月下旬に開催を予定していますが、開催前に委員の改選がありますので、開催日時が決まりましたら、新たな委員



の方々にあらためてご案内させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

なお、後藤会長におかれましては、任期の都合上、このたびの審議会が最後となりますので、ご挨拶いただきたいと思います。

会長

10年間任期を務めさせていただき、平成23年からは会長を、委員の皆さまのご協力もあり、無事務めることができました。

帯広市の上下水道も将来に渡り、安心して使用され続けることを願い、これからは一市民として、上下水道事業を応援させていただきたいと思います。

委員の皆さま、そして上下水道部の職員の皆さまに感謝を申し上げ、挨拶とさせていただきます。

事務局

以上を持ちまして、第5回経営審議会を閉会いたします。